

平成 19 年度 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (B)  
「早期英語教育指導者の養成と研修に関する総合的研究」

研究代表者 小林美代子

## 2007 年度 研究概要

平成 16 年度より 3 年間実施してきた研究プロジェクト「早期英語教育の指導者養成及び研修の実態と将来像に関する総合的研究」を 2007 年 3 月に終了し、それに引き続き本研究プロジェクトを開始した。研究活動の初年度にあたる平成 19 年度は、(1)前プロジェクトからの継続課題の確認と 3 カ年の研究計画立案、(2)現行の早期英語教育指導者養成・研修に関わる諸問題の抽出、(3)前プロジェクトの研究結果発表を実施した。(1)に関しては、特に、前プロジェクトの研究活動の一環として実施した民間児童英語教室の指導者と公立小学校教員を対象とする二つのアンケート調査より得られたデータをより仔細に分析する中から、新規研究プロジェクトの方向性を探った。特に、今後は指導者に求められる英語運用力に焦点を絞って研究することとし、翌年度以降のアンケート実施の準備を進めた。(2)に関しては、前年度に引き続き、学会・研究会等への参加による資料収集活動を行い、現在の日本の小学校英語活動及び指導者養成・研修の現状と諸問題を考察した。(3)に関しては、平成 19 年 9 月に、本田勝久氏（大阪教育大学）、久埜百合氏（中部大学）と共に大学英語教育学会（JACET）（於広島市）シンポジウムで研究発表を行い、同年 11 月には全国語学教育学会（JALT）（於東京都渋谷区）において英語による口頭発表を行った。平成 20 年 3 月には研究代表者小林美代子はブリティッシュ・カウンシル主催の東アジア早期英語教育セミナー（於バンコク）に日本代表の一人として参加し、前研究プロジェクトの研究結果を各国代表に対して発表した。

また平成 19 年 10 月には、神田外語大学 20 周年記念国際シ

ンポジウムの午後の部「英語教育国際シンポジウムーこれからの子ども英語指導を考える」(於東京国際フォーラム)を開催した。パネリストとして、加納幹雄氏(金沢大学)、田中真紀子氏(神田外語大学)、スタン・ピダーソン氏(千代田区教育委員会・神田外語大学)、小林美代子(神田外語大学)、及びコメンテーターとしてバトラー後藤裕子氏(ペンシルバニア大学)を招いた。各パネリストからは、子どものための英語指導に関わる諸問題についての発表があり、コメンテーターからは「言語政策の柱」(Kaplan & Baldauf, 2007)を枠組みとするコメントがあった。翌平成20年2月には、ブリティッシュ・カウンシルと神田外語大学の共催、文部科学省、東京都教育委員会、大阪府教育委員会の後援を得て、「小学校英語の現状と課題」と題する一日のセミナーを東京会場(神田外語学院)と大阪会場(大阪国際会議場)で開催した。基調講演には、シーラ・リクソン氏(英国ウオーリック大学)、チョン・キョンスク氏(韓国カリキュラム評価研究所)、小泉仁氏(東京家政大学)、小林美代子(神田外語大学)を招き、午後には実践的なワークショップとパネルディスカッションを行い、様々な角度から小学校英語を考えた。いずれの会場も定員を上回る申し込み者で、この問題に対する世間の関心の高さが感じられた(詳細については pp. 302~306 を参照のこと)。

現在、平成19年度の活動内容を中心とした報告書を編纂している。

平成 19～21 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））  
「早期英語教育指導者の養成と研修に関する総合的研究」  
（研究代表者 小林美代子）

## 研究報告書（掲載内容予定）

- 小学校教員に期待される英語力を考える 小林美代子
- 早期英語教育指導者に望まれる英語運用能力 — 民間指導者  
および小学校教員を対象とする意識調査のコメント分析 —  
宮本 弦・小林美代子
- アメリカと日本の小学校の「教室文化」における一考察  
— 教師と生徒の関係 — 田中真紀子
- 神田外語大学創立 20 周年記念英語教育国際シンポジウム  
「これからの子ども英語指導を考える」発表概要
- 1 カリキュラムと教材の選定及び指導の連続性について  
加納幹雄
  - 2 小学校英語教育—子どもは教師をどう捉えているか—  
田中真紀子
  - 3 The role of native English speaking teachers (NESTs)  
Stan Pederson
  - 4 早期英語指導者の養成と研修をめぐる課題  
小林美代子
  - 5 今後の小学校英語教育政策への課題点  
—「人事政策」に関して— バトラー後藤裕子

## 資料編

関連研究発表要旨